中世文学未刊資料の研究

佐藤高

中世文学未刊資料の研究

佐藤高明著

ひたく書房

【著者略歴】

大正13年　徳島県に生れる
昭和28年　東京文理科大学国文学科卒業
昭和38年　国立阿南工業高等専門学校助教授
昭和42年　同校教授に昇任
昭和43年　文部省教科書調査官
昭和52年　文部省主任教科書調査官に昇格
昭和56年　文学博士〔筑波大学〕
昭和57年　現在，文部省主任教科書調査官として勤務中

【著書】

＊『阿讃諸文庫国文学翻刻双書』（全12集）—昭和40年度文部省科学研究費補助金（各個研究）の交付による．
＊『後撰和歌集の研究』（日本学術振興会刊）—昭和44年度文部省科学研究費補助金〔研究成果刊行費〕の交付による．
＊『片仮名本増鏡の研究』（風間書房刊）—昭和50年度文部省科学研究費補助金〔研究成果刊行費〕の交付による．
＊『真寸鏡—桂宮本—』（勉誠社刊・昭和55年）
＊『御物本増鏡』（勉誠社刊・昭和56年）
＊その他，国文学，国語教育に関する論文，紀要等多数．

昭和57年2月20日　印刷
昭和57年2月28日　発行

中世文学未刊資料の研究　定価一五〇〇〇円

©

著者　佐藤高明
発行者　井上了貞
印刷者　田中忠男

発行所　ひたく書房
〒144　東京都大田区南蒲田二—八—五
電話〇三—七三八—一五九三番
振替東京〇—八七三四七番

S.　ISBN4-89328-011-2 C3093 ¥15000E

緒言

国文学の研究には、何よりも信頼できる本文を用いることが重要である。そのためには作者の自筆本を用いることがもっとも理想的であるが、国文学――とりわけ古典文学の世界では、それは到底望み得べくもない現状にある。というのは、古典文学の作品の多くは原作者の自筆本が失われていて、われわれの眼に触れるのは、自筆本を書写した転写本のみが存在するというのが実状だからである。それとても自筆本にごく近い年代の転写本が残っているならばまだしも、中には自筆本から幾世紀も距てて転々書写された不純な本文によるしか方法のない場合すらある。

そこでわれわれは、現在に伝え残された転写本、つまり伝本を一本でも多く博捜してその本文を調べ、でき得る限り原作者の自筆本の本文に近い状態に復元し、よりすぐれた正統な本文を用いて研究をする必要がある。その一つの作業として各地に存在する公私の書庫に秘蔵されている、いまだ世に知られざる伝本の発掘や調査という仕事が、ここに重大な意義をもつに至るのである。そういう意味では、現在調査が進められている冷泉家の文化遺産の数々は、まさに世紀の大事業というべきであろう。

今回、本書が公刊することとしたのは、旧阿波藩主蜂須賀家に所蔵されていた「阿波国文庫」の写本群である。阿波国文庫はもと蜂須賀家の徳島本邸に三万余冊あり、別に東京別邸にもほぼそれに近い数の蔵書があって、両者を合わせると実に六万冊になんなんとする一大コレクションであった。それはまさに旧加賀藩の尊経閣文庫にも匹敵する貴重な古典の宝庫であった。その中には学界未見の貴重な資料をはじめ、世界に一つしかないといわれた国宝級のものをも含め、由緒正しい本文を有する善本を数多蔵していたことは、夙に学界周知の事実である。しかるに不幸な今

次大戦の結果、その多くが烏有に帰し、残余のものもまた止むを得ざる仕儀によって四散した。そして現在、徳島県立図書館に所蔵されているのは、僅かに四百六十余冊の寥々たる有様であって、隆盛を誇った往時の面影は全くみられない。

しかし現存する数少ない蔵書の中にもこれを丹念に調査すると、国文学研究上、逸することのできない数々の貴重な資料の含まれていることが判明した。その中には、例えば、屋代弘賢の不忍文庫旧蔵の一本でもある天下の孤本『拾遺集私抄』や、筆者がさきに公刊した片仮名本『増鏡』の一伝本たる『源起記』の如き、学界未見の新資料も存在したことは、筆者の大きなよろこびであった。

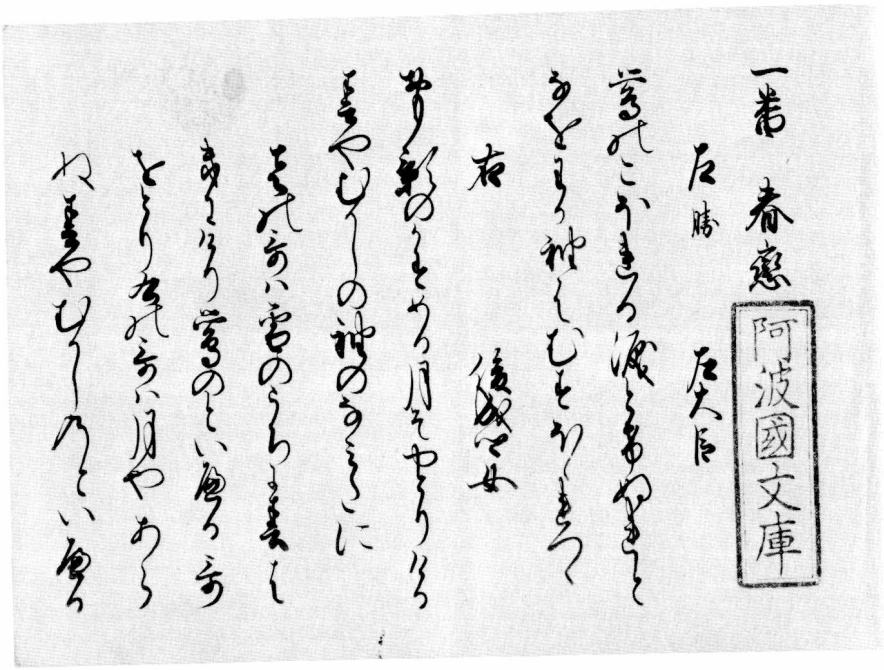
そこでこのたび、これらの中から右に挙げた未翻刻の『拾遺集私抄』をはじめ、いま一本の新資料たる『家長日記』、並びに『土御門内相府通親卿記』『文亀三年卅六番歌合』などの諸作品に加え、筆者架蔵のものもあわせて紹介することとした。

なお、本研究は、昭和五十六年度文部省科学研究費補助金研究成果刊行費の交付に基づく公刊であることを一言附記する次第である。

昭和五十七年一月

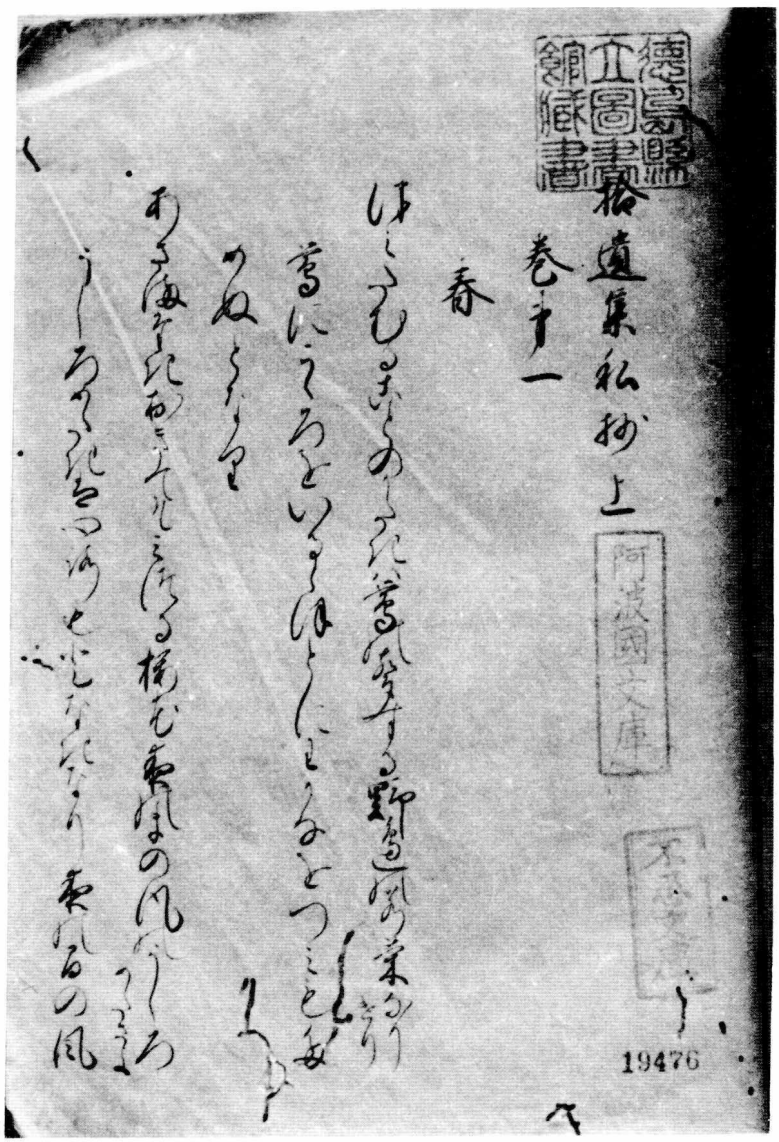
佐藤高明

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



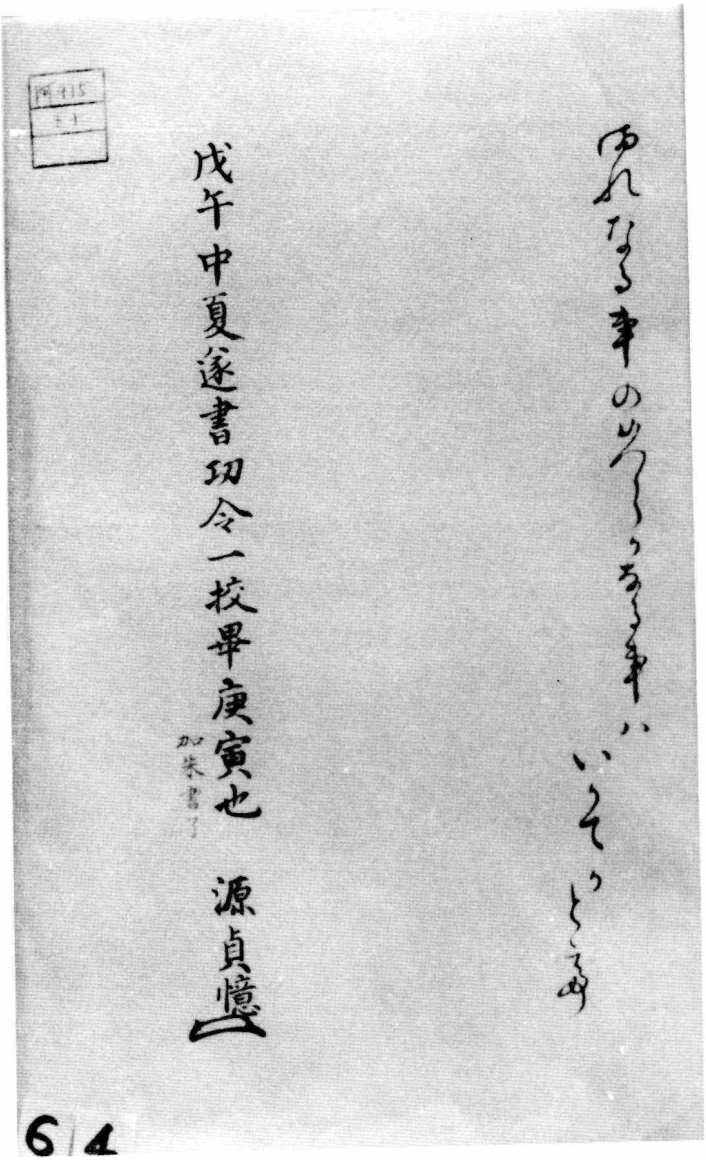
『下冷泉為豊　七十五番恋歌合』(筆者所蔵)の冒頭本文.
別名『水無瀬殿恋歌合』とも.

天下の孤本『拾遺集私抄』上巻の表紙.
下巻も同体裁. 現在, 徳島県立図書館蔵.

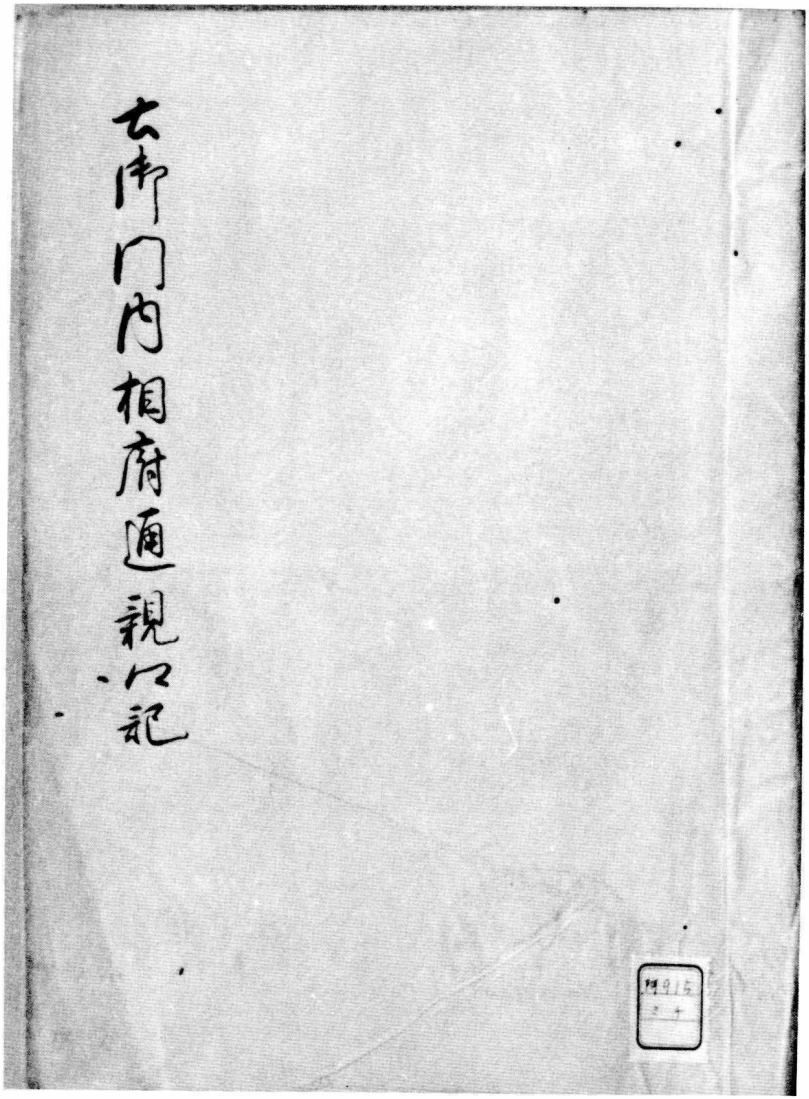


『拾遺集私抄』上巻の本文．阿波国文庫本と共に，
江戸時代最大の蔵書家屋代弘賢の不忍文庫の蔵書印もみえる．

いま一本の阿波国文庫本『家長日記』の冒頭本文.
これまでの研究書に全くとりあげられていない新資料.

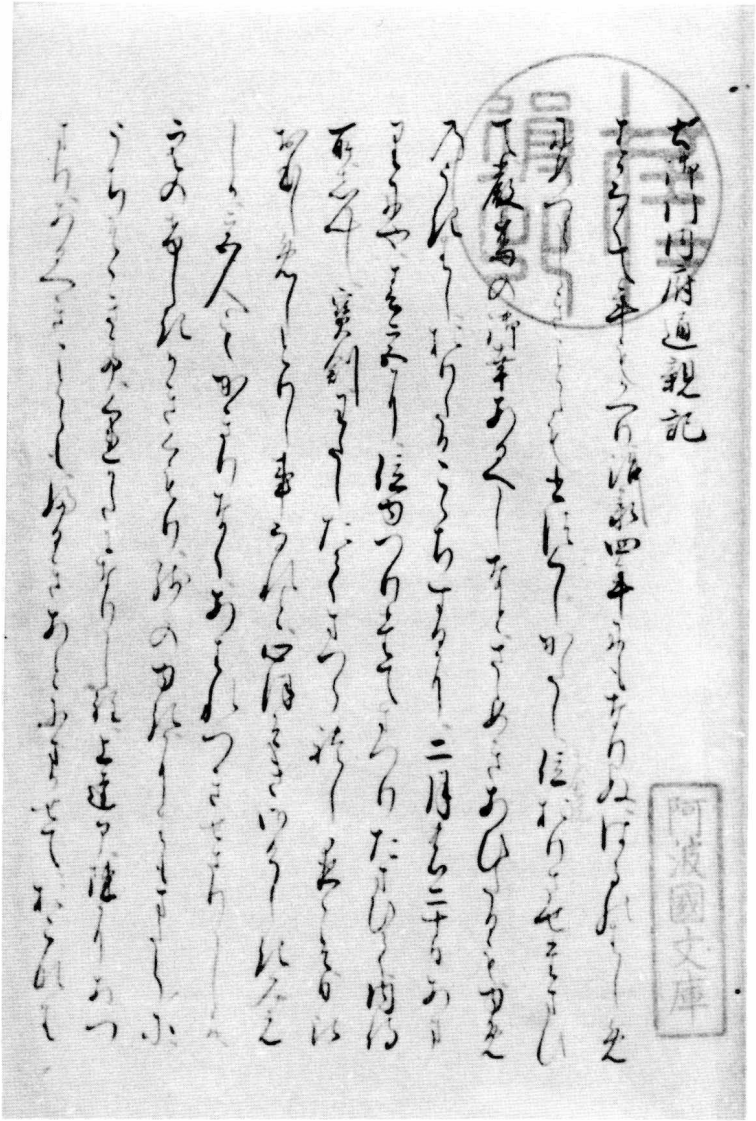


『家長日記』の奥書.
従来の阿波国文庫本(後藤重郎氏御所蔵)には奥書はない.

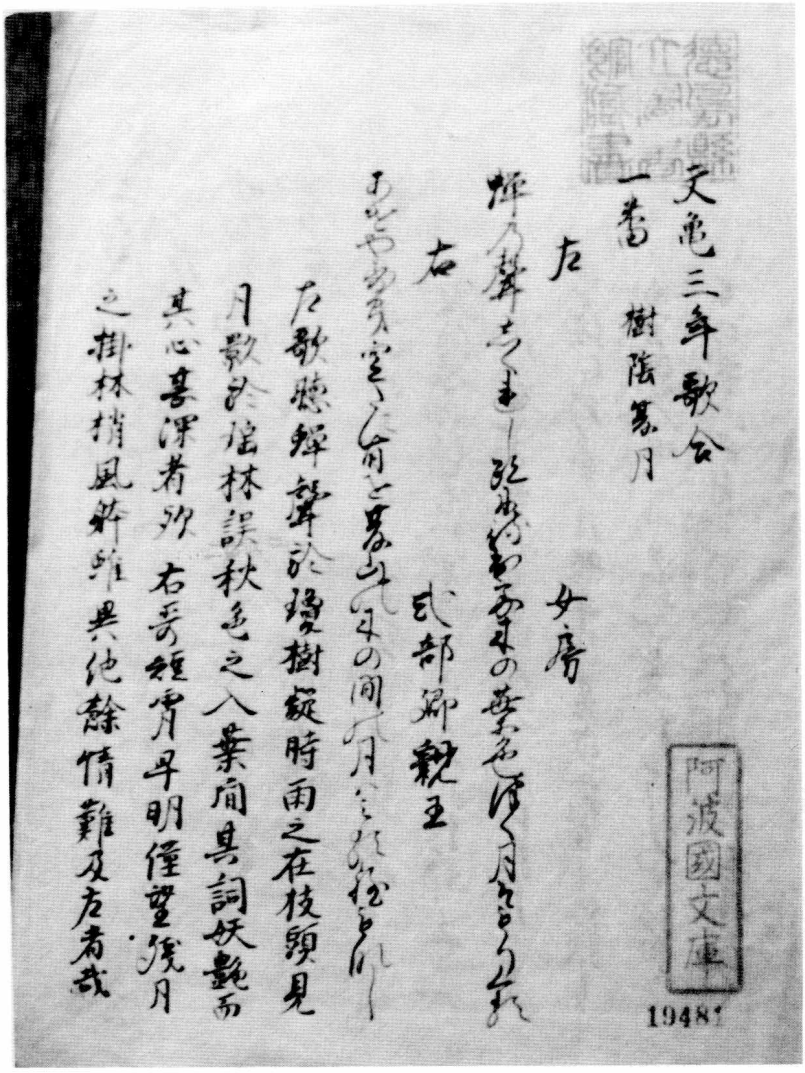


『土御門内相府通親卿記』の表紙.
『家長日記』と全く同体裁であるが，筆蹟は異なる.

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



『土御門内相府通親卿記』の冒頭本文.
『家長日記』と共に，現在，徳島県立図書館蔵.



『文亀三年三十六番歌合』の冒頭本文.
表紙の題簽には『文亀三年卅六番歌合』とある.

目次

口絵写真
緒言
第一部　本文翻刻篇
凡例
拾遺集私抄（阿波国文庫旧蔵　不忍文庫旧蔵　徳島県立図書館蔵）……五
家長日記（阿波国文庫旧蔵　徳島県立図書館蔵）……六九
土御門内相府通親卿記（阿波国文庫旧蔵　徳島県立図書館蔵）……一一三
遠嶋百首和歌（森敬介旧蔵　徳島県立図書館蔵）……一六三
下冷泉為豊七十五番恋歌合（阿波国文庫旧蔵　筆者架蔵）……一八一
文亀三年卅六番歌合（阿波国文庫旧蔵　徳島県立図書館蔵）……二一九
第二部　研究・解説篇
第一章　拾遺集私抄について……二四五
第二章　拾遺和歌集成立考……三九五

第三章　いま一本の阿波国文庫本家長日記……四三五
第四章　土御門内相府通親卿記の出現……四八九
第五章　『遠嶋百首和歌』と『家長日記』との関係について……五五一
第六章　下冷泉為豊七十五番恋歌合の成立について……五八五
第七章　文亀三年三十六番歌合について……六四五
索　引　和歌初句索引
　人名・書名・重要語句索引
あとがき

第一部　本文翻刻篇

凡例

一、本書は現在徳島県立図書館に所蔵されている阿波国文庫旧蔵本、並びに森敬介旧蔵本と、筆者架蔵の阿波国文庫旧蔵本とを忠実に翻刻したものである。

翻刻にあたっては出来得る限り原典通りを旨とした。そのため、次の諸点に意を用いた。

原典における漢字は一部を除き原典通りの字体とし、あえて常用漢字字体に統一したりはしなかった。例えば、原典のある個所に「聲」「𨑨」「邊」とあり、別な個所で「声」「松」「辺」とあればその通りとし、これをあえて「聲」「𨑨」「邊」に、また「声」「松」「辺」などの字体に統一したりすることは避けた。

一、原典における明らかな誤写、誤字もこれを私において改めずにそのままとし、判読困難な個所と共に本文中に＊印を附し、且つ（　）を施してその中に諸本の本文を示して参考に供した。

一、翻刻文には濁点は附さなかった。しかし読者の便を考えて句読点は附した。但し、句読点については次の方法によった。即ち原典には書写者または校訂者の附したと思われる句読点にかわる朱点が附されているので、本書の句読点も大体それに従うこととした。

一、原典の本文にある傍注形式による朱の書き込みについては、本書においては（朱）として翻刻した。

一、原典における見せ消ちは＊印を附し、（　）内に「衍字」と注記して示したが、＊印をしなかった場合もある。

一、「ゝ」「〳〵」などの反復記号は原典通りとしたが、漢字については「々」を用いたところもある。

一、読みやすいように、本文を適宜に段落に区分した。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com